

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■ 新着書棚から (新しく受け入れた資料の紹介)



『オーバーツーリズム(増補改訂版)
—観光に消費されないまちの
つくり方』

高坂晶子著
学芸出版社発行
2024年9月/2,640円(税込)
所蔵箇所: 信濃町

本書は、オーバーツーリズムの背景や実態とその対策をまとめたものである。国内外の多くの事例を紹介するだけでなく、具体的な対処方法も明示している。また、SNSの影響によって生じている次世代オーバーツーリズムや、観光客に責任ある行動を求めるレスポンスブル・ツーリズムといった新たな潮流についても考察している。

オーバーツーリズムの発生地は、人気観光拠点型、リゾート型、稀少資源型に分類できる。その影響範囲は、自然環境や景観だけではなく、生活環境や日常の活動にまで拡大し、分散、課金、規制などの手法で対応されている。人気観光拠点型のベニスでは水質汚染により、悪臭など住民被害が発生し、中心部への立入制限や罰金などを定めた。新倉山浅間公園のようにSNSで拡散し、無名のスポットが突然ブレイクする現象も起きているが受入態勢が未整備で、行政の対応も追いついていない。これらを一挙に解決できる特効薬的な手法は現在存在しないが、危機管理として対応し、関係主体間でWin-Winの関係を構築し、地域の観光の将来像を描くことが重要である。(古森)

■ 書庫のなかから (所蔵資料の紹介)

『観光—その反省と前進のために』

伊江朝雄著
交通日本社発行
1976年5月
所蔵箇所: 上野 (一般公開中)

本書は、昭和30~40年代の高度経済成長期における日本の観光産業を対象に、当時の課題や今後の方向性を多角的に考察した一冊である。著者は国鉄で旅客営業に長年携わり、「ディスカバー・ジャパン」キャンペーンの展開にも深く関わった経験を持つ。

当時、観光は国民生活の一部として注目される一方、工業開発と同じ発想で進められた結果、性急な商業主義が横行、観光地の陳腐化や地域の特色・魅力の喪失といった「観光公害」を招いていた。こうした状況を打開するため、著者は観光開発をあくまで地域主体で進めるべきだと説き、地域社会の総合的な発展と密接に結びつくものとして捉え直すことの重要性を指摘している。また、観光公害への対応としては公共的・政策的な誘導が望ましいとし、交通機関の役割や料金政策を地域社会とどう調和させるかについても言及する。

性急な観光開発が抱える課題を分析しつつ、新しい時代に向けた発想の転換を本書は提案しており、観光と地域社会が共生する持続可能なあり方を模索する内容となっている。(原)

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当: 古森崇史, 原祥太, 土方規義, 田邊由佳

